

安全データシート

作成日 2002年 9月 1日

改定日 2010年 5月 1日

2019年 1月25日

製品名：液体苛性ソーダ（25%以上）

1.製品及び会社情報

製品名	液体苛性ソーダ 25.00%以上
会社名	埼玉薬品株式会社
住所	埼玉県さいたま市見沼区卸町 1-43
電話番号	048-686-5221
FAX 番号	048-686-3332
整理番号	AMU-0125
推奨用途及び使用上の制限事項	上下水道、食品添加物、一般工業用

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性:	火薬類	:分類できない
	可燃性／引火性ガス	:分類できない
	可燃性／引火性エアゾール	:分類できない
	支燃性／酸化性ガス	:分類できない
	高压ガス	:分類できない
	引火性液体	:区分外
	可燃性固体	:分類できない
	自己反応性化学品	:分類できない
	自然発火性液体	:区分外
	自然発火性固体	:分類できない
	自己発熱性化学品	:分類できない
	水反応可燃性化学品	:分類できない
	酸化性液体	:分類できない
	酸化性固体	:分類できない
	有機過酸化物	:分類できない
	金属腐食性	:分類できない

健康に対する有害性:

急性毒性－経口	:区分 4
急性毒性－経皮	:分類できない
急性毒性－吸入(気体)	:分類できない
急性毒性－吸入(蒸気)	:分類できない
急性毒性－吸入(粉塵／ミスト)	:分類できない

皮膚腐食性／刺激性	: 区分1B
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	: 区分1
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露):	: 区分1(呼吸器)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
水生環境—急性有毒性	: 区分3
水生環境—慢性有毒性	: 分類できない
オゾン層有害性	: 分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 飲み込むと有害

: 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

: 臓器(呼吸器系)の障害

: 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・この製品を使用する時に、飲食、又は喫煙をしないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・容器を密閉しておくこと
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ・粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレー等を吸入しないこと。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・使用前に取り扱い説明書を入手し、全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

【応急措置】

- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・直ちに医師に連絡すること。
- ・曝露又は曝露の懸念がある場合、医師の手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・漏出物を回収すること。

- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の手当てを受けること。
- ・皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・飲みこんだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

【保管】

- ・施設して保管すること。
- ・容器を密閉にして、直射日光を避け、換気の良い涼しい所で保管すること。

【廃棄】

- ・内容物/容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	:混合物(水溶液)
化学品名	:水酸化ナトリウム(苛性ソーダ)
成分及び含有量	:水酸化ナトリウム 25.00%以上(水溶液)
化学式又は構造式	:NaOH
官法公示整理番号	:化審法(1)-410
PRTR法	:該当しない
CAS No.	:1310-73-2

4.応急措置

吸入した場合	:新鮮な空気のある場所へ移し、うがいをさせ、安静保温に努める。 呼吸困難の際は酸素吸入を、呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。 直ちに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:汚れた服・靴を脱ぎ、皮膚を大量の水で洗い、直ちに医師の手当てを受ける。 医師の指示なく、油類その他の薬を薬傷部に塗ってはならない。
眼に入った場合	:直ちに多量の水で15分以上洗い流す。次にコンタクトレンズを着用していて容易に取り外せる場合は外すこと。きれいな指で瞼の裏をめぐって洗い流す。 直ちに医師の手当てを受ける。
飲みこんだ場合	:口をすすぎ、多量の水を飲ませる。吐かせない。直ちに医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護	:汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物質に触れないよう手袋を使用するなど注意する。

5.火災時の措置

消火剤	:この製品自体は、燃焼しない
使用してはならない消火剤	:特になし
火災時の特有の危険有害性	:溶液は腐食性があるので、保護具を着用する。 溶液は滑りやすいので気を付ける。
特有の消火方法	:火災時、移動可能な容器は速やかに安全な場所へ移す。 移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。本品の容器内に水が入らないように注意する。
消火を行う者の保護	:消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ミストを吸入したりしないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
回収、中和	: 適切な保護具を着用してできるだけ空容器に回収する。場合によっては希酸で注意深く中和し、その後を大量の水を用いて洗い流す。

7.取り扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 眼及び皮膚への接触を避ける。 アルカリ性物質なので、酸性物質との接触を避ける。
注意事項	: 容器を転倒／落下等により衝撃を与える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散等をしないようにし、みだりに粉じんや蒸気を発生させない。 使用後は容器を密閉する。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
安全取扱注意事項	: 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
保管	
安全な保管条件	: 直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
技術的対策	: 施錠して保管すること。 気温が下がると凝固することがある。 毒物劇物取締法に基づき、貯蔵は「毒物及び劇物の貯蔵に関する構造・設備等基準」に従うこと。 基準の主な内容は下記の通り。 【タンク】オーバーフローを防止するための液面計を設ける。最大貯蔵量は最大貯蔵能力の95%とする。 【防液堤】容積はタンク容量の100%相当し、2基以上のタンクがある場合には最大タンクの容量の100%とする。 【受入口】ローリーホース等との接続はフランジ結合、ねじ込み接合等とする。貯蔵場所及び取扱場所付近には、洗浄、手洗い装置を設ける。
混触禁止物質	: 水反応可燃性物質 アルカリ性なので、酸性の製品とは同一場所に貯蔵しないこと。
安全な容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン

8.ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。 取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度 作業環境評価基準	: 設定されていない。
許容濃度	
OSHA PEL	: air CL 2mg/m ³
ACGIH TLV(s)	: CL 2mg/ m ³
日本産業衛生学会	: 2mg/ m ³
医師に対する特別な注意事項	: 特になし
保護具	
呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡、ゴーグル型又は全面保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、保護長靴

9.物理的及び化学的性質

形状	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: 無臭
pH	: 強アルカリ
融点	: データなし
沸点(初留点)	: 138°C (48%)
引火点	: 測定されない
自然発火温度	: 測定されない
爆発範囲(上限・下限)	: 測定されない
蒸気圧	: データなし
比重	: 1.2770 (25.00%)
溶解度	
溶媒に対する溶解性	: 水に可溶。アルコールに可溶
n-オクタノール/水分配係数 log Po/w	: データなし
分解温度	: データなし

10.安定性及び反応性

安定性	: 安定。強アルカリ性で炭酸ガスを吸収しやすい。
危険有害反応可能性	: アルミニウム、すず、亜鉛などの金属を腐食して水素ガスを発生し、これが空気と混合して引火爆発するおそれがある。
避けるべき条件	: 日光、熱、酸
混触危険物質	: 強酸、金属、水反応可燃性物質
危険有害な分解生成物	: データなし

11.有害性情報

苛性ソーダ(水酸化ナトリウム)のデータを示す。

急性毒性	: 腹腔 マウス LD ₅₀ : 40mg/kg (RTECS) 経口 ウサギ LDLo: 500mg/kg (RTECS) 経口 ヒト LDLo: 1.57mg/kg (RTECS)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分 1A) 皮膚刺激 ウサギ 500mg/24H 重度 (RTECS) ヒト皮膚に対して 0.5%以上で irritating (SIDS, 2002)、severe corrosion (DFGOT Vol.12, 1999)を引き起こす。 ブタ皮膚に対して 8%以上で corrosion(SIDS, 2002)、ウサギ皮膚に対して 5%、4 時間で severe necrosis (ACGIH, 7th, 2001; PATTY, 5th, 2001)を引き起こす。
眼に対する重篤な損傷性 又は刺激性	: 重篤な眼の損傷(区分 1) 眼刺激 ウサギ 50µg/24H 重度 (RTECS) 眼刺激 ウサギ 1mg/30S 重度 (RTECS) ヒト眼に対して severe, serious hazard を引き起こす (ACGIH, 7th, 2001; DFGOT Vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)。 ウサギ眼に対して 1.2%以上で corrosive を引き起こす (SIDS, 2002)。
生殖細胞変異原性	: 染色体異常試験: バッタ 静脈注 20mg
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害(呼吸器系)(区分 1) ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす (SIDS, 2002; ACGIH, 7th, 2001; DFGOT Vol.12.1999; PATTY, 5th,2001)

12.環境影響情報

生体毒性	
魚毒性	: 水生生物に有害(区分 3) 強アルカリ性のため水生生物に有害な影響を与える可能性がある。 甲殻類(ネコゼミジンコ属): 48 時間 LC50=40.4mg/L (SIDS,2004)
残留性/分解性	: データなし
正体蓄積性	: データなし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	: 中和法 水を加えて希薄な水溶液とし、酸(希塩酸、希硫酸)で中和した後、大量の水で希釈して排水する。 本品を酸で中和する時、発熱するので注意する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14.輸送上の注意

国連番号	: 1824
品名	: 水酸化ナトリウム(水溶液)
国連分類	: クラス 8(腐食性物質)

容器等級	: PG II
海洋汚染物質	: 該当
注意事項	: 運搬に際しては容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。

15.適用法令

消防法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 劇物
労働安全衛生法	: 法第 57 条の 2(令第 18 条の 2)名称等を通知すべき有害物 No.319 規則第 326 条 腐食性液体
船舶安全法(危規則)	: 腐食性物質
航空法	: 腐食性物質
海洋汚染防止法	: 施行令別表第 1 有害液体物質 Y類物質
化学物質管理促進法(PRTR 法)	: 非該当
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第 2 条第 4 項、施行令第 3 条の 3)【6 水酸化ナトリウム】
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項

16.その他の情報

引用文献

- 1.毒劇物基準関係通知集、改定増補版 厚生省薬務局安全課監修 薬務広報社(1991)
- 2.化学物質の危険・有害便覧 労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会編(1991)
- 3.危険物防災救急要覧—化学物質の性状と取扱い— (社)神戸海難防止研究会編 成山堂書店(1990)
- 4.化学大辞典 共立出版(1993)
- 5.Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM(2003)
- 6.15911 の化学商品 化学工業日報社(2011)
- 7.製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html>
- 8.GHS 混合物分類判定システム(Ver1.2)経済産業省
- 9.化学品法規制検索システム 日本ケミカルデータベース(株)

この安全データシートは、各種の文献等に基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありません。また、作成の時点における知見によるものです。注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な条件下で使用する場合は、その環境に応じて安全対策を講じてください。含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証もするものではありません。
